



お茶を飲みましょうか

Janina Carlon

Armidale High School
New South Wales, Australia



学習者年齢： 15才
日本語レベル： 初級
文化面の目的： 非言語コミュニケーションを学ぶ
茶道に影響を受けた日本社会の礼儀を学ぶ
学習する日本語： 茶道に関連する語句
“お茶を飲みましょうか、 ちょっとはいけんさせて、 床の間、 生け花”

学習目標

- ・人々が異文化と接したときに起こる問題を検討することにより、自らの文化を見直す機会を得る。
- ・日本文化における非言語的コミュニケーションを学ぶ。
- ・日本の伝統文化の一つである茶の湯の作法が、現代日本人の日常生活に及ぼしている影響を検討する。
- ・茶を飲むという日常行為が芸術の域にまで洗練されていることを体験的に学ぶ。

授業の進め方

自分の理解力を超える問題に接したときに人々が示すこっけいな反応を誇張してマンガ化することによって、生徒の関心を引きつける。異文化間の接触に伴う問題を取り上げることで、生徒が日本人や日本文化をより深く知りたいと思うようにする。

1. オーストラリアでアフタヌーン・ティーに呼ばれた日本人が、ティーポットの銘柄を見ている場面をOHPでマンガを見せながら説明し、日本人とオーストラリア人がそれぞれどう思っているかについてディスカッションする。授業の最後

に吹き出しに入る言葉を考える（吹き出しは空白になっている）。

2. 茶の湯とオーストラリアのティーパーティを比較し、現代日本の日常生活に残る茶の湯の礼儀作法について推測する。
 - ・茶の湯の席は定められた時間に始まり、参席者は一斉に帰る。日常生活においても（日本人は）約束の時間丁度に到着し、一斉に帰る。
 - ・茶の湯の席では、お茶は自分では入れず、主人が入れる。日常生活においても、ビールなどの飲み物は自分でつがない。
 - ・茶の湯の席では、精神を集中させるためにほとんど会話をしない。
 - ・1人に1つずつお菓子が出される。抹茶には砂糖やミルクを入れない。
 - ・柄や銘柄を見て、茶器をほめる。マンガの吹き出しに言葉が入ったものを見せ、日豪の視点の違いを認識させる。
3. お茶を飲む。60秒間沈黙し、精神を集中させるなどして、茶の湯の精神の一端を体験的に学ぶ。

外国語学習と文化理解

日本が羊毛と牛肉の主要な輸出相手国であるにもかかわらず、オーストラリアのノーザン・ニューサウスウェールズの人々は、日本についてほとんど何も知らないか、日本人が毎日着物を来て稲作をしているという古い固定イメージしか持っていない。高校の日本語プログラムは、もともと日本に関する視野を広げ、日本文化や社会を理解することを目的としているため、単に語いや構文を覚えることよりも外国語学習の場を借りた日本文化理解に重点が置かれている。シドニーやゴールドコーストのように日本人観光客と接触する機会はなくとも、生徒たちの住む地域は農業を通じて日本と強い結びつきがあり、日本を知ることとはとても重要なことである。